

「安心しなさい、わたしだ、恐れるな」
マタイによる福音書 14章 22～36節

「夜が明けるところ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれた」(25節)。弟子たちの舟が逆風で荒れる波に襲われる中、イエスさまは弟子たちを助けに来られました。しかし弟子たちは、そのイエスさまを見て幽霊だと思ったのです(26節)。弟子たちは、自分たちに近づいて来る人の形をしたものがイエスさまだなんて思ってもいませんでした。けれども、イエスさまは私たちの思いを遥かに超えたお方です。ですから、湖の上を歩いて弟子たちの所に来ることも出来たことでしょう。そして、イエスさまは弟子たちに話しかけられます。「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」(27節)。

イエスさまは、不安と恐れを抱いている弟子たちに向かって、「安心しなさい」と言われます。これは「勇気を出せ」「元気を出せ」とも訳される言葉です。弟子たちは疲れ果てているのです。もうダメだと思っているのです。その弟子たちにイエスさまは「元気を出しなさい」「勇気を出しなさい」と言われました。この言葉は、その後弟子たちが復活の主イエスによって全世界に派遣され、福音を伝えていく中で、何度も思い出し、何度も聞き取っていくことになります。

教会のシンボルは、今はほとんど十字架だけが使われていますが、初代教会から長い間、舟もシンボルとして用いられてきました。時代の荒波の中、神の国という向こう岸に向かって進んで行く舟。それがキリストの教会です。この舟に象徴される教会は、逆境の中でいつも、このイエスさまの御声を聞いてきました。「安心しなさい。元気を出しなさい。勇気を出しなさい。恐れるな」。この御声を聞き続けてきました。そして、このイエスさまの御声は、今も私たちに語られ続けています。

この時、イエスさまは「わたしだ」と言われました。これは、「幽霊ではない、わたしだ。イエスだ」という意味もあるでしょう。しかし、もっと重大な意味がこの言葉にはあります。ギリシア語原典では「エゴー・エイミ」と言うのですが、この言葉は、神さまがモーセに名を尋ねられた時に答えられたご自身を顕す名前、「わたしはある」(出エジプト 3:14)という言葉と同じ意味を持つ言葉です。つまり、イエスさまはここで弟子たちに「エゴー・エイミ」と言うことによって、「わたしは神だ。この天地を造った者だ。あのモーセが出会った神だ」、そう宣言しているのです。だから、「恐れるな」と続くのです。どんなに逆風が吹こうが、高波が行く手を阻もうが、まことの神であるイエスさまがいてくださる。イエスさまが、元気を出せ、恐れるなと言われる。だから大丈夫。「安心しなさい」なのです。キリストの教会は、このイエスさまの御声と共に二千年を歩んで来たのです。

そのイエスさまの言葉にペトロが応えます。「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」(28節) ここにあるのは、ペトロのイエスさまへの信頼です。御言葉は実現するという信頼です。イエスさまは「来なさい」と言われます。ペトロはこのイエスさまの言葉に従って舟から降りて水の上を歩いて、イエスさまの方へ進んだのです。

舟の上から水の上へ一歩を踏み出す。この一歩があるか、ないかで人生が変わります。この一歩は、信仰による最も大きな一歩だと思います。出来る、出来ないとか、常識云々

とか、そんな計算や見通しが入る余地はありません。イエスさまが「来なさい」と言われた。だから、舟から水の上へと一歩を踏み出した。御言葉に委ねるのです。

しかし、ペトロは強い風に気がつきます。イエスさまだけを見て、イエスさまの言葉だけを信頼していた時は怖くありませんでした。しかし、強い風に気がつくと急に怖くなったのです。するとペトロは沈みかけ、溺れかけてしまいます。これもまた、ペトロです。そして、私たちの信仰の姿でもあります。では、この時、ペトロはどうしたのでしょうか。彼は「主よ、助けてください。」と叫んだのです。

ペトロはイエスさまに助けを求めたのです。そして、そのペトロに対してイエスさまは、ペトロの叫びを聞くと「すぐに手を伸ばして捕まえ」てくださいました。それから言われました。「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」と。この順番が決定的に大切なのです。イエスさまがペトロに「信仰の薄い者よ」と言われた時、イエスさまは既に手を伸ばしてペトロを捕まえておられたのです。これが私たちに与えられている救いの恵みです。

私たちの信仰の歩みは、いつもたどたどしいものです。イエスさまを信じて歩み出したまでは良かったものの、現実の様々な困難、問題に直面すると、イエスさまから目を離して、違うものに気を取られてしまう。「安心しなさい。わたした。恐れるな。」とのイエスさまの御声を聞いても、「この現実はどうにもならないではないか」と思ったりしてしまう。けれども、私たちは忘れてはならないのです。滅びの中に引きずり込まれそうな私たちを、イエスさまの御手がしっかりと捕えてくださっているということ。憐れみと恵みに満ちた主の御手が、すでに私たちを救い上げてくださっているのです。私たちは、歯を食いしばって、頑張る、正しい人になって救われるわけではありません。私たちの信仰の歩みはたどたどしく、弱く、破れやすいものです。しかし、そのような私たちを、イエスさまの御手がしっかりと捕らえてくださっているのです。その恵みの中で、私たちは神の国という向こう岸に向かって舟を漕ぎ続けていくのです。